



三千里

Vol. 20

2012年4月号

発行
NPO法人 三千里鐵道
〒441-0109
愛知県豊橋市下五井町青木31
TEL.0532-53-6999
FAX.0532-54-4931

世界美術史に刻まれよう、海外同胞コリア美術の偉大な貢献

呉炳学大回顧展、 豊橋市で開催



去る2月7日から12日まで、在日同胞画家呉炳学先生の88歳米寿を記念する大回顧展が、愛知県豊橋市の美術博物館で開催された。

初日開会式には多くの同胞と市民、画伯を慕う美術愛好家と支持者が参集した。何よりもこの地に居住する同胞は、主義主張と団体所属を越えて老画伯の大回顧展成功のために、共に出席し祝った。

主催は呉炳学大回顧展実行委員会。委員長には三千里鐵道結成当時の理事、企業家である朴泰秀氏が引き受け、昨年名古屋市で行った画伯の美術展以後、共に取り組んできた在日同胞と日本人が事務局をつくり準備してきた。

開会式では、民主党の参議院議員予算委員長・石井一先生、名古屋出身国会議員・近藤昭一先生からの祝電が紹介された。つぎに豊橋市佐原光一市長が、大回顧展の開催を祝う挨拶(2面)をした。その後市長は画伯の手を握り、その意を表わした。

開会式のニュースは、翌日中日新聞と地域紙等に掲載された。東海TVは当日ニュースに、地域有線放送では繰返し放映された。

うわさうわさと呼び、2日目展示場を訪れる人々はさらに増えた。画伯自らが語るギャラリートーク(6、7面)につづき、最終日に行われた作品ガイドツアーには、400人余りの人々で混み合った。(3面につづく)



統一された朝鮮半島で個展を！ 画伯の夢に感銘



朴泰秀

実行委員会 委員長

呉炳学画伯の88歳 大回顧展にお越し下さいまして、誠にありがとうございます。呉炳学先生と初めてお会いしたのは12年前になります。ここ豊橋のとなり小坂井町で、朝鮮半島の北と南の鉄道をつなごうという運動が起きました。その建設基金を集めるために発

行された夢切符に、呉炳学先生の絵が描かれていました。躍動感に溢れ、今にも飛び出してきそうな画を見て、私はすぐにファンになりました。こうしてこの豊橋の地で、皆様に見て頂けるチャンスができたことは、この上ない喜びであります。

呉炳学先生には、統一された朝鮮半島で個展を開きたいという大きな夢があります。先生はもう88歳、米寿を迎えております。早く朝鮮半島が統一され、その夢が叶えられることを願っております。

三千里鐵道の力強い活動の中で生まれた美術展

呉炳学先生、88歳の米寿の素晴らしい展覧会、おめでとうございます。夢を追い、一生懸命に汗をかいて前に進む。そんな三千里鐵道という団体の、朝鮮半島の統一を目指す力強い活動の中で生まれた美術展だと、私は思っています。私も豊橋市の美術館がその一助となり応援できたことに、私達も幸せな気分になっています。

孤高の画家ということなので、私達も存知上げておりませんでした。はじめ仮面舞の絵など画集を拝見致したときには、どれほどの大きさなのか見当がつきませんでした。この展示場で画に見入り躍動感あふれる豪快な筆使いと力強さ、同時に描かれている人たちへの温かな愛情を、すごく強く感じました。セザンヌを志したとのことですが、筆使いはゴッホのような、セザンヌをもっと力強くしたような印象を受けました。

一つ残念なことは、当美術館に今回新しく付けたLED

ライトが、検査前なので点いていません。このライトに照らされると、きっと絵が立体感、臨場感にあふれ、踊っている人たちが飛び出してくるような、そんな感じが得られたのになあと、ちょっと残念に思っています。

あと何ヶ月かすると使えるようになりますので、もう一度、その中でぜひ拝見させて頂いたら嬉しいなあと思っています。(笑い)

今回の回顧展が、皆様の素晴らしい活動の支えになることを信じ、これからも先生が90歳、100歳めざしてご活躍されることを、心より祈念致します。本日は、本当におめでとうございます。



佐原光一

豊橋市 市長

呉炳学画伯
答 辞

私の使命は…。命ある限り筆を持ったまま…。

今日は雨の中をわざわざ、私の絵を鑑賞するためにおいで頂きまして、ありがとうございます。都

相太さん、実行委員長の朴泰秀さん、豊橋の市長をはじめ皆様のご支援で、これだけの回顧展が開かれることは、私としては生涯の忘れがたい喜びでございます。

私は満18歳で日本に来て、東京でデッサンの勉強をしながらパリに行くつもりでいました。私は国籍が朝鮮で郷里も平壤なものだからビザが取れなくて、やっと1990年にビザを取得しヨーロッパに何度も行って、現地ですケッチをしたりパリに暮らして絵を描いたりしてきました。私はセザンヌが、ルネッサンス以来ヨーロッパの本格的な伝統を、近代に最も造形的に整理したと考え

ており、セザンヌが私の先生のつもりでいます。彼はもう死んでいますから、作品自体が私の先生であり、私は彼の作品を分析することで自分の栄養として、自分の絵を創っているつもりです。しかし、私の描いているモチーフは全て民族的なもの、朝鮮の踊りと朝鮮の焼き物などで、ソウルの風景も1枚描きました。

技術的にはヨーロッパの本格的な土台をもって、自分の民族的なモチーフを、自分がどれだけ高いレベルに持ち上げることができるか、これが私の使命だと思って頑張ってきました。これからも命ある限り、筆を持ったまま死にたいと思っていますのです。どうぞ皆さん引き続きご支援頂ければ、ありがたいと思います。何とぞ、よろしくお願い致します。

「仮面舞劇」、この地の同胞、市民との宿命の出会い

※一面とこの記事は、韓国「統一ニュース」からの転載。投稿者は南相三



(1面から続く) その中でも特にこの地域同胞らの反応は格別なものがあつたようだ。

ある同胞は、今回の回顧展のために画伯が準備した大作「仮面舞劇」の前で、立ちすくみしばらく動くことができなかつた。またある同胞は、画伯の手を熱く握り“有難う”と何度も繰り返した。そして、展示場では昔なじみらと久しぶりに再会し挨拶を交わす老・中年男女の姿も見られた。過ぎし日々を懐かしむこの方々の胸中には、総連、民団等の所属団体や主張などは消えていた。

朝鮮半島が日本の植民地であつた時代、この豊橋は軍都と称され軍事的に重要な戦略的拠点の一つであつた。海軍大崎飛行場と小坂井町の住友金属製作所、当時東洋最大の豊川海軍工廠もあつた。また、軍需物資輸送のため鉄道敷設工事などが集中した。全国から多くの同胞が寄り集まつたが、その中には故郷から強制連行された徴用者などもいたと言われている。

祖国が解放されるや、同胞が密集し住んでいる部落では、万歳の歓声が木霊した。そして日々の苦しい生活の中でも、解放の喜びを胸に隣人を大切に思い助け合いながら暮らした。

この平和な部落に(戦争まで起こした)祖国朝鮮半島の理念対立が、その後の同胞社会に目に見えない壁をつくり、ちりぢりに引き裂いてしまった。

それでも、廃虚になつた飛行場、軍需工場跡で、幼少年期共に遊んだ記憶と、互いが成長しながら会えばただ酒を酌み交わし騒ぎ遊んだ追憶は、理念に縛られたくびきから抜け出すことを秘かに願つていた。生活の底辺でこの地の同胞たちは、互いに近い存在であつた。やむを得ず分けられても、そしてしばし別々に存在していても、心の片隅にいつも一つの望みを持って生きてきたのだ。

同胞たちは、画伯のもたらした渾身の大作の前で、その

「仮面舞劇」の放つ強烈なメッセージに吸い込まれるように、旧情を取り戻したのだ。

日本市民らの反応も良かった。“西洋油絵の技法に東洋の精神を融合させた独特の作品世界”、“画伯の闘魂とコリアの勇壮な気概に圧倒された”と絶賛した。

私の夢は

回顧展を終えて関係者たちの打上げも済ませた次の日、画伯を訪ねインタビューを求めた。

筆者は躊躇することなく、今回発表した大作に込めようとした創作意図、今後の目標について尋ねた。画伯は、静かにしかし信念に充ちた声で次のように話した。

“仮面の裏に隠れた民衆の圧制者に対する怒り、未来への希望、五千年の歴史の中で東北アジアを駆け巡った騎馬民族、今に引継がれているコリア民族の気概と魂を表現しようとした。

私は日帝時代セザンヌに魅かれ画家になろうと、単身日本にきた。深刻な人権差別の中で苦学をしながら、セザンヌの世界を体得しようと今日まで研鑽を重ねてきた。しかし決して、先人の模倣で終わろうと考へたことはない。セザンヌの世界と民族的な情緒、技法を融合させた独自の世界、即ち世界美術史に寄与するほどの独創的な世界の創造が私の目標だ。

今どの段階に達したのかは、見る人々が評すであろうが、今後も私の残つた余生をその目標のために捧げる覚悟だ。そして、統一された祖国の国立美術館に私の絵を寄贈することが、私の夢であり願いだ。”

まさに今回の呉炳学大回顧展は、分断された祖国の南北民族と在日同胞に向けた画伯の信念と宿願が、この地にもたらした祝祭であり、美術史に記録される巨大な足跡となつた。



写真で見る 回顧展の風景



作品ガイドツアー



ファンとの再会



大作「仮面舞劇」の前で



花束を手に緊張



2月6日、搬入作業



まずは玄関に看板を



実行委員長宅はサロンに!



大成功に乾杯!

回顧展をふり返り、 今思うこと

開会式前の一時



都相太

2000年6月15日の南北共同宣言の発表から、はや12年の歳月が経とうとしています。この間、NPO三千里鐵道によせられた皆様のご支援、ご理解に、心よりのお礼を申し上げます。

この2月に豊橋美術館で開催された呉炳学画伯の個展では千数百人の観客が訪れ、文化の持つ力を改めて感じました。

この個展の実行委員長の朴泰秀氏に深甚なる敬意と感謝を申し上げ、これに関わりあった多くの仲間にもお礼を申し上げます。

三千里鐵道の設立当時には内外で激しい議論もありましたが、12年経ちますと少しおとなしくなった様な気がします。少し大人になったのか、それとも老いてエネルギーが減少したのか気になるところです。

南北共同宣言の二人の当事者である金大中大統領と金正日国防委員長は、この世からいなくなり、また、その意思を継承した盧武鉉大統領もいません。寂寥感がありますが、時の流れは世の常ですから、その意思を継いでいくのが生きている者の役目であると考えています。

設立当時からの念願でありました南北の鉄道は、二路線(京義線・東海線)で連結しましたが、残念ながら未だに人々と物の交流は達成されていません。

個々人にそれぞれの主張を持っているものですが、南北の指導者は国民の選択の結果であると考えれば、私

たち海外にいる同胞は、批判は別にして受け入れるしか方法はありません。しかしながら、平和と統一への願いはいささかの揺るぎの無いものであることは明確にしなければなりません。

在日の先輩方の努力により、今年実施される韓国の総選挙と大統領選挙に、在日韓国人は投票の権利を得ました。

海外同胞にとって非常に不平等な方式で、投票の意思表示をした者は3%内外という状況です。

投票は当然の権利行使ですが、それには義務と責任が伴うもので、一人ひとりの民主主義のあり様と祖国に対する関心度を問われています。

特に在日韓国人は本国政治の直接の当事者であることです。

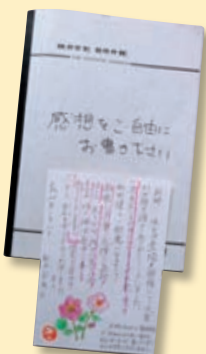
仲間たちが関わっている組織“投票2012”では、昨年末訪韓し、ハンナラ党(現セヌリ党)、民主党、統合進歩党にたいし、在日の候補者を擁立するように要請してきました。

その成果として、在日の候補者が立候補することに決まりました。

当選するか否かは別にして、このような人材を育むのも三千里鐵道の役目の一つであります。

皆さんとともに、多くの境界を越え、境界をまたぎ、境界をなくし、愛のつまった境界をはっきりさせるのも、われわれの務めだと考えます。

感想メモ



- 韓国に興味を持っているので楽しみにしていた。このような絵画は初めてです。素晴らしいの一言、何時までもお元気で…。 豊橋市 N
- 豊橋の日曜画家、ふらっと立ち寄り見学した。画に思いが入っていて、とても良いと思った。 S・O
- 静かで気品に溢れた作品に感動! H・K
- 仮面舞には圧倒された。人体と李朝白磁はいつ拝見しても素敵! S・Y
- 東京芸大を中退して独自の画流を築こうとした迫力に打たれた。アジア民族がセザンヌを自らの内に取り込み、模倣から抜け出そうとのた打ち回るような苦しみが、仮面舞に結晶していたように感じた。 T・T
- 呉先生にお会いでき、画帳に直筆まで頂いた。実り少ないわが人生ではあったが、時々神は喜ばしいことを届けて下さる。あまりの喜びに一言御礼を申し上げる。 K・O

有名であるより、 最高レベルの画風をめざす!

司会 皆様、本日はお忙しい中ご来場いただきまして、誠にありがとうございます。「呉炳学88歳大回顧展ギャラリートーク」を始めさせていただきます。私は進行を務めさせていただきます黒谷まり子と申します。どうぞよろしくお願い致します。お隣にい



司会 黒谷まり子(フリーアナウンサー)

らっしゃいますが、皆様もうご存知かもしれませんね、今回の主役でございます、呉炳学先生でございます。どうぞ皆様、拍手でお迎え下さいませ。(拍手)これから僅かなお時間ではありますが、ギャラリートークにお付き合い頂きたいと思っております。

まず冒頭、先生のプロフィールを簡単にご紹介させていただきます。在日画家でいらっしゃる呉炳学先生は、中学生のときにセザンヌの絵画に衝撃を受け、画家になることを決意。18歳で単身、朝鮮半島から日本に渡りました。新聞配達をしながら、民間の美術学校に通い、東京芸術大学に入学。2年半在学しましたが、理想を見出すことができず、自ら独学の道を選び、今日に至ります。以降、妥協のない強い信念と情熱で、独自の画風を確立していらっしゃいました。

もう皆様、会場のほうは一巡されましたでしょうか。今回は88歳の米寿を記念した大回顧展となっています。正面にありますのが、今回の目玉、新作の大作「仮面舞劇」です。大作・新作をご覧頂きながら、お話を進めさせていただきます。先生が絵を始めるきっかけは、セザンヌの絵だそうですが…。

●セザンヌに魅せられ

呉先生 子供の頃からいたずらっ子で、絵が好きでした。小学校に入っても絵の時間に褒められると、いい気になって更に熱心に絵を描きました。中学校では美術部に入り更に絵を描いて、中学3年の時には絵描きになろうと決心しました。当時、通っていた学校は平壤の学校ですが、平壤には研究所がないので、卒業したら東京へ行こうと決心して、単身、東京に行きました。



東京の太平洋美術学校という研究所で、1年ぐらゐ勉強して、その後、パリに行きたいと思ったけれども、パリに行くためのビザが取れないので、戦後1990年にやっとヨーロッパに行つて本物の絵を見てきました。自分が日本で画集を集め頭の中で覚えている巨匠たちの作品の実物を、ルーブル、オルセ、マドリッド、フィレンツェ、ローマの美術館で本物をじっくり見て、巨匠たちの実物を頭の中にしっかりと覚え込んで帰りました。美術的にはそういうものを養分として用い、私の民族の「仮面の踊り」、それから「朝鮮の焼き物」、この二つを題材、モチーフとして世界的な水準にまでなんとかもっていきたくて頑張りました。

現在は、この程度しかできていないんですが、皆さんがご自由にご判断下さい。これからは死ぬまで同じ気持ちで続けたいと思っております。

司会 今、先生が語られた中に、ヨーロッパに行かれたこと、そして、セザンヌに私淑しながら勉強したことなど話されました。そのあたりを掘り起こしながら、今からお伺いしたいと思います。

まずは、冒頭のお話しに戻りまして、先生が18歳で絵を学ぶために、日本にやって来たときの時代背景は、今とは全く異なっていたわけですよね。

呉先生 その時は、生きていけなければ死んでもいい、でもまあなんとかなるだろうと考えてやってきました。

第2次大戦が終わり植民地から解放されて自由になったけれど、食べてゆくために苦労しました。そうした中でも、自分の目的である絵に集中して頑張りました。その間、1946年から1947年に、一度、学校に入ってみようと思い、東京芸大に入りました。私がただ一人尊敬している日本の絵描きで安井曾太郎という先生が、戦前の終わりの頃から戦後の初めにかけて東京芸大の油絵科の主任教授をやっていたからです。この先生に教わりたいと思って芸大に入ったのに、主任教授は月に一回しか教室に来ない、あとは助教か講師が教えるわけですね。私の先生はセザンヌのつもりだから、そのレベルからみたら問題にもならないので、学校を辞めました。あとは自分で巨匠たちの作品を分析し、その栄養を自分の糧とし、朝鮮民族の踊りや焼き物を自分の題材として、ずーと今も同じ状態で描いています。

司会 具体的には、当時どのようにして独学で絵を学んでいかれたのでしょうか。

●民族的モチーフを西洋絵画の技法で

呉先生 まず、ヨーロッパに行けないものだから、日本で集められる油絵の巨匠たちの画集でいいものは全部集めました。100冊ぐらゐ集めました。それを、毎日メシを食うようにくり返し見て、自分なりに画集を通じて分析しました。1990年に、やっとビザが下りたので、今度はヨーロッパに行つて、ルーブル、オルセ、マドリッド、トレード、フィレンツェ、ローマ、ロンドンなどの美術館を全部まわつて、私が画集で覚えている名画の本物をつぶさに観察し、実物の記憶を頭にしっかりと叩き込んで帰りました。今でもそれを栄養にして描いているわけです。

司会 朝鮮民族の伝統的なものをモチーフにしながらも、絵画の技法というのは、セザンヌやゴッホやクレー等の西洋絵画にルーツを見出しながら描いてきたんですね。

呉先生 元々朝鮮民族というのは騎馬民族で、リズム感でいうと、三拍子の1・2・3、1・2・3という踊りのリズムを持っている訳ですね。絵というのは空間の芸術ですが、踊るときの三拍子のリズム、ダイナミックで激しい動きを、目に見える形で絵にしているわけです。絵の中にリズムを形にする、それを目に見えるようにすることに苦労しました。この絵を見てダイナミックな動きが、もし皆さんに感じられれば、非常に幸いだと思えます。

司会 先生の「仮面舞」の絵には、そのリズムが根底に流れていながら、さらに力強さとか、この躍動感が観る人に迫ってくるんですね。

呉先生 皆さんが絵を見て、「いいなあ」、「美しいなあ」と思う場合に、どうしていいのか、美しいのかを知りたい人もいます。全ての傑作は、重心がしっかり下がっています。いい絵は必ず、腰が低く重心が下がっており、安定感があります。例えば印象派で、セザンヌ、ピサロ、スーラーなどは皆、美しい綺麗な絵だけれども、重心を下げる点においてセザンヌが一番徹底的にやっている。セザンヌの絵に比べて、モネの絵は、軽く浮いた感じになるくらい、もの凄く違いがあります。私は、自分の絵を描くときに、絶対に重心を下げるということを、最初に筆をとるときから、念仏のように唱えて描きます。次は、描くものを取り巻く空間です。これが一番難しいのですが、それが描かれていないと、本当の存在感は出ません。普段は意識しない空間や周りを見て、初めて空間の中にしっかり存在しているものが見えます。この空間の中で、引力によって引っ張られる重さがあり、それは全部下の方にいっていかなくてはいけません。こうしてこそ、絵が安定するのです。3番目は、スケール感があるかどうかです。「重心」と「奥行き」と「スケール感」、この三つを意識して見ると、絵を見る面白さが何倍にもなって、楽しくなります。

司会 先生は絵を描かれるとき、独特の解釈で絵を描かれるとお聞きしましたが…。

呉先生 普通は、絵の具を搾り出してそのまま使いますね。私は、それをパレットに広げて、何日かそれを煉りなしておして粘着力が出た段階でつけます。チューブから出したばかりでは、粘着力がなく浅い感じになるわけですね。よく煉った絵の具を、筆だけではなくナイフでギュッと押しつけて描きますので、キャンバスにしっかりと食い込みます。溶き油の使い方とも絵描きによって違いますが、私はそんなに使わない。だから、描くのはどちらかというと、スーッスーッという感じではなく、レンガを積んでい

くように一筆一筆…、それを最終的には綺麗にまとめて自分の小宇宙を創る、そういう感じで今やっています。

司会 だから、「白磁」と向き合ったときに、陶器の質感が私たちにピンピン伝わってくるのですね。先生は、壺を通して実は壺を描いていない、また仮面を描いているんだけど、実はそれは木で彫った仮面を描いているわけではないと、おっしゃったことがあるんですけども。

呉先生 壺を単なる工芸品として描くと、それは壺の商品広告のようなものになってしまいます。私は壺を描くときに、生きている人間の体を描いているつもり、つまり人間の生きたボディを描くつもりで壺を描くわけです。だから、壺が生きているように見えないといけないわけですね。逆にヌードを描くときには、大きな壺を描くつもりで描きます。だから私のヌード作品は、生臭い感じがしないはずで。人体の美しさが、すんなりと嫌味の無い形で出ているはずで。



司会 壺を見ているけれど、無機質なものでなくて、そこに一本一本血管が通っているような生々しさを感じます。あちらの裸婦像では、余計なものを一切削ぎ落とした造形美として捉えているがゆえに、変ないやらしさが感じられない…

呉先生 画家が自分の力を付ける場合に、必ずヌードを描きますね。頭のとっぺんから足の先まで、しっかり描く力がつけば、あとはどんなものでも描けるようになります。そのために基礎の段階でヌードを勉強するわけですね。そのときに、それをしっかりやった作家と適当にやった作家では、その後の仕事の内容が全然違ってきます。だから我々画家は、ヌードを基礎の勉強の材料として徹底的にやるわけです。

●頑固と言われても、自分の道を貫きたい

司会 ここで針生一郎氏という美術評論家を紹介します。常に美術界に一石を投じ続けて、真の芸術家を世に輩出しようと生涯を捧げていらした故針生一郎氏が、呉炳学先生礼讃の言葉として幾つか言葉を残していらっしゃいます。その一言をここで紹介します。「呉炳学は、セザンヌやゴッホ、クレールの精神を皮相な模倣の域を超えて、刻苦勉強しながら、真の内に体得することに懸けた。困難のうちに、同様の志を抱く画家は多いが、ここまで見事にそれを実現した画家は、他に知らない。」と、礼讃されました。この意味は、決して食べていくことが容易でない画家だった、大抵の画家は食べていけないのだから世の中に阿て売れる絵を描いてしまうが、呉炳学という人物は最後までそれをせず、高齢になっても自分の画業、道を貫いてきた画家だ、そういう画家を他には知らないと、礼讃されているんですね。

先生は東京の銀座などの一流画廊でも個展をされていますが、お客様が「この絵、いいわね」、「欲しいわ」とおっしゃると、先生は「売りません」と言うんですね。(笑) ちょっと偏屈と言いますか、変わっていると言いますか…。これはちょっと歴史に名が残るぐらい偏屈な方だと思っ

呉先生 私は、私の絵を本当に気に入って、どうしてもという方に作品を持ってもらっています。

司会 初日に東京からもたくさんの方がいらっしゃったんですが、たくさんの方のファンの方が「あの絵も、この絵もいいけど、先生は売ってくれないわよねー」と、ぼやいている方がいらっしゃいました。自分の画風というものを何人たりとも踏み入れさせたくないという強い信念と情熱があったということなんですね。そこには極端な一端があって、光と影と言いましょか…。陰の部分は、先生のその頑固な情熱の故に、日本の画壇、そして韓国を含めた朝鮮半島の画壇からも取り残されてしまっているという事実が、影を落としているというわけなんです。

呉先生 私は、自分が有名になろうという気は、元々ないわけ。ただ、自分で納得のいくいい絵を描きたいと、それも、最高のレベルに達した絵を描きたいと、…欲が深いわけ。

司会 それは、片側を見た光だと思っんですね。今までの頑固さが、この画風を確立してきたわけですから、それは何人も真似ができない先

生だけのオリジナルという絵の完成という光の部分でもあると思っんですね。もう88歳であられますからラストステージが始まっているわけですが、最後まで信念を貫き通して、いつか筆を置く日まで信念を曲げることなく画業を貫きたいという想いでいらっしゃるわけですね。

呉先生 自分が行こうと思うことを最後まで貫いて死のうと、これからも同じ状態で描けるだけ描いて死のうと思っと思います。幸い、私を助けてくれる在日の同胞や、日本の友人たちが若干いますので、どうか生きていけるし、絵が描き続けられています。あと5、6年は生きたいので、どうかよろしく願います。(拍手)

司会 5、6年と言わず、まだまだ長生きして頂きたいと思っと思います。

ここで、ご質問などありましたら、

質問者1 西洋画をモデルにして描かれていた先生が、朝鮮半島の仮面舞とか白磁を描くようになったのは、いつ頃から、そのきっかけは?

呉先生 1950年代頃でした。きっかけは、私が朝鮮人だし、自分の民族の美意識、美の感覚を自分の作品で実現したいと…、その場合に民族意識とか民族のモチーフを下手に描くと、朝鮮人なんて、つまんないなど感じを与えても逆効果ですね。だから、これを高いレベルに仕上げてこそ、朝鮮とは魅力があるなあと見て頂けるわけで、私が朝鮮を辱める下手な絵を描いたら、とんでもない国賊になっちゃいます。だから、そうならないように一生懸命、頑張ってきたつもりですが…。

質問者2 この絵に描かれている踊りは、何を表現している踊りなのでしょうか?

呉先生 朝鮮全土にある踊りです。日本にも青森の「ねぶた」とか、あるいは、ここの「鬼おどり」とかありますね。それと同じものです。これは朝鮮の田舎の小さな部落の中で、全人口が700人ぐらいの村で、そこで踊りながら一日大騒ぎしながら楽しむ一場面です。

これ(大作「仮面舞劇」)には、物語がありまして、李朝の中世に高い税率を取り立てるものだから、お百姓さんの不満が今にも爆発寸前までできているとき、政府が何とか鎮めるために一日だけ村を支配している僧侶と地主の悪口をなんぼでも言っついでいと定めたわけ…。その日、地主や僧侶はじっと我慢して悪口を聞かなくちゃいけない、それで民衆の溜まった不満のガス抜きをはかったわけですね。そり反っているのは地主、隣は坊主、坊主をチェックするのが獅子(お釈迦様をチェック役として送ったという昔話がある)、それを絵にしたわけです。こちらは百姓の代表が仮面をかぶって罵詈雑言を浴びせ、後ろの素顔の人たちはワイワイ囃し立てるはやし役ですね。

もう一つ私が念頭においたのは、皆さんご存知のベートーベンの第九交響曲です。何人かのソリストを比較的大きく描き、バックの群集は合唱です。踊っているのは、ベートーベンの曲で躍動的なパート、例えば第三楽章などですね。そこへ合唱がワーッと入る。でも、第二楽章などは静かなものですね。この静かな楽章の魅力は、もう何とも言えない。この強弱のコントラストを、ベートーベンほど見事に、一つの曲に流れ中でよどみなく最後まで人を引っ張っていく力は、まさに天才。それが私は大好きで、自分の画面がそういう風になれたらなあと、夢のようなことを考えているわけです。

司会 ありがとうございます。

植民地下にあった祖国でセザンヌに刺激を受け、単身一人で何の当ても無く日本に渡って来た18歳の少年は、激動の時代を潜り抜けるように自分の画業に専念し、なんと今年88歳になりました。先ほどその信念をこれからも貫き通すという力強い言葉を頂きましたけれども、今後ますます先生が素晴らしい絵をお描きになることをご期待して、最後に大きな拍手をお贈り頂きたいと思っと思います。(拍手)

先生、最後に一言、皆様にかかご挨拶をお願い致します。

呉先生 これだけ熱心に見て頂いて、私のつまらないおしゃべりまで聞いて頂き、本当にありがたいと思っと思います。これからも、一生懸命やりますので、どうぞよろしく願います。





第19代韓国総選挙に 立候補して

康宗憲

2012年、韓国籍の在外国民は初めて国政選挙に投票することとなった。残念ながら、在外国民の選挙人登録率は推定有権者の5.6%、実際の投票率はさらに低い約2.5%と推測されている。しかし、現行公職選挙法の煩雑な登録手続きを改正すれば、投票率は飛躍的に高まることだろう。とりわけ、在外国民の地域別投票率では、在日同胞の投票者が8,068名（投票参加率43.3%、4月2日午前7時現在）と最多であったことに注目したい。

今回の総選挙に、私は統合進歩党から比例代表として立候補した。少数野党の比例18番というのは、当選圏からあまりにも遠い順位である。某新聞の言うように「蟻螂の斧」に等しい無謀な愚行かもしれない。しかし、解放後も徹底して本国と居住国から疎外され政治的な無権利状態に置かれてきた在日同胞が、当事者として自ら声を上げる事なくして、誰が私たちの状況を改善してくれるだろうか。その思いで私は出馬した。

戦前から在日同胞の歩んできた道は、実に険しいものだった。過去を全く反省しない植民地宗主国で、解放と同時に分断された祖国を持つ在外国民として生きるしかなかった私たちは、まさに植民地統治と民族分断の痛みをもらに受けてきた存在と言えるだろう。それだけに、現在、私たちが直面する民族的な課題を解決するうえで、在日同胞こそ重要な役割を担えるのではないだろうか。その課題とは言うまでもなく、植民地支配の歴史精算であり、民族の平和統一だ。

在外国民がようやく本国政治に直接参与する機会を得たこの歴史的な年に、我們在日同胞が力を合わせ、先頭に立って新しい時代を切り開いて行きたいと、切に願う次第である。



▲康宗憲氏の自伝的著作

韓国総選挙トピック



当選後の14日、済州島海軍基地白紙化集中行動で演説を行うイム・スギョン氏

統一の花・イム・スギョン、韓国国会に入城

1989年夏、ムン・キュヒョン神父の手を握って板門店を越えたイム・スギョン。23年前の記憶は、'統一の花'として南北コリアと海外同胞の胸中に刻印された。

そのイム・スギョン氏(43)が、第19代国会議員に当選した。去る7日夜ソウル仁寺洞での統一ニュース記者とのインタビューで、立候補の思いを語った。その回答、断片的に拾ってみた。

- 民主党の6.15,10.4宣言履行の無力さと、現政権の南北関係破綻を目撃、国会進出の覚悟を固めた。
- 南北関係が天安艦と5.24措置以後遮断された。金剛山観光も途絶え、文化・体育・放送交流が一瞬に停止し、あまりにも苦しかった。
- 私の候補者名刺には、'南と北をつなぐ架け橋になります'

と刷ってある。「イム・スギョン」だからできることがある。

— 89年は障壁を突破するためだった。そして6.15,10.4宣言で西海直航路も乗り、金剛山も行き、今も制限的だが開城工業団地も運営されている。

— 分断で苦痛を受ける人々が多い。離散家族、金剛山観光中断され苦痛を受けた地域の人々、天安艦犠牲者の母たちの涙をふいてあげ話を聞いて、彼らの真に願いを实践することを、国会議員がすべきでしょう。

— 私が平壤に行ってきた23年になった。今、北の19才、20才の方に「スギョン」という名前が多いと聞いた。彼らの両親世代や私たちの世代は、あの夏板門店で流した熱い涙、胸に秘めてきた多くの想いを忘れていない。イ・ヨンヒ、パク・ヨンギル、イ・ドンミョン、キム・グンテ等で代表される分断イデオロギーと地域感情を克服しようとした7,8,90年代民主主義変遷史がある。今はみな亡くなった。今はそういう方々を継承することが必要だ。